NO. 16

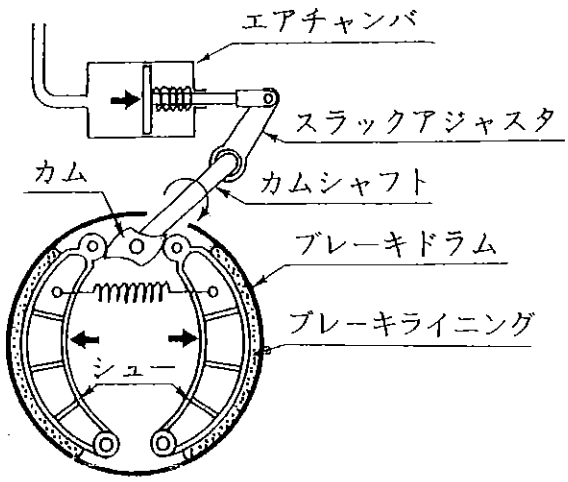
ブレーキライニングの取扱注意事項

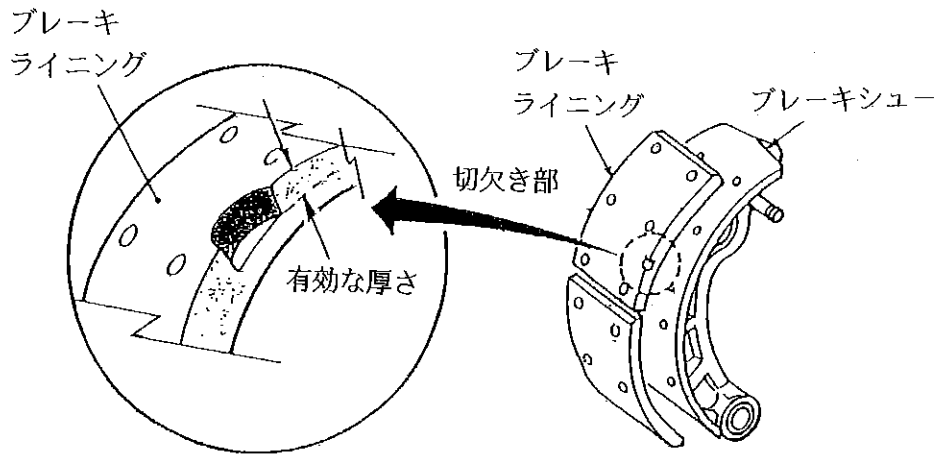
ブレーキライニングは、車両の制動をコントロールする大変重要な部品です。

間違った取り扱いをしたり、点検、整備を怠ると制動コントロールが出来なくなり、重大な事故の原因となります。

ここに、ブレーキライニングのサービスマニュアルを作成致しましたのでお役立て下さい。

1．構　造





2．ブレーキライニングの異状による現象

ブレーキライニングに異状があると、次のような現象があります。

現　　象	現　象　の　要　因
ブレーキの片効き 制動力不足	① ブレーキライニングまたはブレーキドラムにオイルや水が付着している。 ② ブレーキシューのクリアランスの調整が悪い。 ③ ブレーキライニングとブレーキドラムとの当りが悪い。 ④ ブレーキの使い過ぎによるフェード現象。
制動時に騒音が出る	① ブレーキライニングが使用限度以上に摩耗して、リベットが露出している。 ② ブレーキライニングの表面が硬化してツルツルになっている。(過積載、下り坂のブレーキの多用など) ③ ブレーキシューアンカピンが摩耗または、ブッシングが摩耗している。

3．保守・点検

1）ブレーキライニングの有効厚さの点検
ブレーキライニングには、有効な厚さがあり、使用限度が規定されています。
ブレーキライニングの使用限度表示（インジケータ）、またはメーカー指定のブレーキライニング残厚を確認し、使用限度に近づいたら早めに交換して下さい。
ブレーキライニングは、必ず純正品を使用して下さい。ブレーキライニングは、ブレーキドラムとの相対的バランスを考慮して設定してありますので、純正品以外の部品を使用すると異状発熱等によりブレーキドラムのヒートクラックの原因となります。
（ヒートクラックについては、トレーラサービスニュースNo.2「ブレーキドラム割れの発生要因と予防対策」を参照下さい。）

2）ブレーキ調整、ブレーキシューアンカピン等の点検
各メーカーの取扱説明書等の整備基準、整備期間を確認し、次の保守･点検を行って下さい。
① エアーチャンバブッシュロッドストローク調整
（オートスラックアジャスター装着車は、取扱説明書等を確認して下さい。）
② ブレーキシューアンカピン、ブッシングの摩耗
③ リターンスプリング張力、自由長の点検
④ ローラとローラピンの点検
⑤ ブレーキシューの外観

4．注意事項

フートブレーキ、トレーラブレーキを使い過ぎるとブレーキライニング、ブレーキドラムの早期摩耗やブレーキドラム、ライニング等が過熱し、ブレーキの効きが大幅に低下するフェード現象が発生しますので注意して下さい。

1）車間距離の確保
十分な車間距離を確保し、ブレーキの多用は避けて下さい。

2）トレーラブレーキの多用禁止
トレーラブレーキのみの多用は、ブレーキライニング、ブレーキドラムの早期摩耗の原因となりますので避けて下さい。

3）規定内積載での運行
最大積載量以内で運行し、過積載での使用は行わないで下さい。また、積み方についても第5輪と車軸にバランス良く積載して下さい。

4）補助ブレーキの使用
長い坂道を下るときは、フートブレーキの使用を最小限とし、エンジンブレーキ、エキゾーストブレーキあるいはリターダブレーキの補助ブレーキを使用して下さい。